令和５年度みんなで参加！パラスポーツステップアップ事業

共生スポーツ大会 「ボッチャ競技」

**競　　技　　規　　則**

１　競技部門

* チーム戦の部（１チーム ３名編成：交代要員１名を含む４人編成でもよい）
* ペ　ア戦の部（２人一組：交代要員は認めず、試合中に1名の選手が出場不可となった場合、その後の試合は１名の選手のみがカラーボール６球を用いて試合を行い、２名とも出場不可となった場合は不戦敗とする）
* チーム戦・ペア戦とも、その編成における座位・立位及び障がい者・健常者の人数制限、性別の制限は設けない。

２　参加資格

1. 宮崎県内在住者であること。
2. 参加者の年齢制限は設けない。
3. チーム及びペアの編成における性別の制限は設けない。（男女混合も可）
4. 大会当日、全ての競技日程に参加できる者。（当日の体調不良などの場合を除く）

３　試合運営上の規則

1. 試合開始前のチーム(ペア)の招集

* 選手、競技アシスタント(ランプオペレーターを含む)は、前の試合の終了時までに、コート付近に集合すること。
* 第１試合と午後の部最初の試合は、本部が定めた時間までの集合とする。

1. 試合開始前に各チーム(ペア)の代表が、審判によるコイントスにより、先攻・後攻のいずれかを選択する（先攻側が赤ボール、後攻側が青ボール）
2. 対戦相手が使用するマイボールチェックについてはこれを行わず、審判による目視でのボールチェックとする。（ただし、審判が必要と判断した場合は、審判がボールに触れてのチェックを行う場合がある。）
3. 選手側から見て、左端のスローイングボックスが１番ボックス、右に向かって２番、３番と続き、右端が６番ボックスとなる。

* チーム戦：先攻の赤ボールのチームは、１番・３番・５番ボックスに入る。

後攻の青ボールのチームは、２番・４番・６番ボックスに入る。

* ペ　ア戦：先攻の赤ボールのペアは、２番・４番ボックスに入る。

後攻の青ボールのペアは、３番・５番ボックスに入る。

* どのボックスにどの選手が入るかは、各チーム(ペア)がきめる。
* 試合途中での選手のボックス変更は認めない。

1. 選手一人当たりの使用できるカラーボールの球数は以下とする。

* チーム戦：２球（チームの合計カラーボールは６球）
* ペ　ア戦：３球（ペアの合計カラーボールは６球）
* 上記の使用できる球数は、投球練習時も適応する。

1. 試合開始前に２分間もしくは双方のチーム(ペア)がすべてのボールを投げ終わるまでの投球練習を認める。一度投球したボールを回収しての練習の続行は認めない。（ジャックボールを含めた７球の投球練習だが、双方のチームとも大会球を使用する場合は、カラーボールのみの６球とする。）
2. チーム戦・ペア戦とも、各ゲーム４エンドとし、エンド時間は６分とする。

* 時間の計測は、審判が投球を指示して計審にパドルを示した時点で開始され、投球されたボールが停止するかラインを越えた時点で終了する。
* 持ち時間の６分が経過した時点で投球されていないボールは無効ボールとなり、リトラクション(除去・回収)される。

1. 投球の指示について

* 審判が該当するカラーのパドルを示して投球を指示するまで、ボールの投球をしてはいけない。指示がない状態で投球されたボールは無効投球となり、リトラクションされる。

1. ジャックボールの投球について

* 投球の順番は以下の順とする。

１エンド：先攻（赤）　２エンド：後攻（青）

３エンド：先攻（赤）　４エンド：後攻（青）

* どの選手がジャックボールを投球するかは、各チーム(ペア)で決めてよい。ただし同じゲーム内において、同じ選手がジャックボールを２回以上投球することは認めない。ペア戦において、ジャックボール投球時に無効投球やヴァイオレーション（反則）が発生した場合とペア戦において１名が試合続行不可となった場合を除く。
* ジャックボールはＶラインを越えなければならない。ラインに触れていた場合は超えていないとみなされる。エンドラインやサイドラインに関しては越えてはならない。ラインに触れている場合は越えたとみなされる。その場合、そのエンドのジャックボールの投球権は相手側に移る。
* ジャックボール投球時に、⑯に記載されているヴァイオレーション（反則）が発生した場合も、投球権は相手に移る。

1. カラーボールの投球について

* ジャックボール投球後のカラーボール投球は、ジャックボールを投球した選手が行い、次のカラーボールは相手チーム(ペア)の選手が行う。この場合、チーム(ペア)のどの選手が投球するかは、各チーム(ペア)が決めてよい。その後のカラーボール投球についても同じとする。
* ３球目以降のカラーボールの投球は、ジャックボールより遠い方が投球を行う。（その順番は審判が決定し、選手に伝える）
* いずれかのチーム(ペア)が全てのカラーボールを先に投げ終えた場合、その後は相手側が投球を続ける。
* 残りのカラーボールを投げないと選択した場合、残球はリトラクション（除去・回収）される。

1. 投球したカラーボールがスローイングボックスフロントラインを越えなかった、または触れた位置で止まった時、サイドライン及びエンドラインに触れた、または越えた場合、アウトボールとしてリトラクション（除去・回収）される。
2. エンド途中にジャックボールが弾かれてアウトボールとなった場合、ジャックボールはクロスに置かれて試合を再開する。その状態でジャックボールより遠いボールの側からの投球となるが、同距離の場合はジャックボールをはじいた側が同距離の状態がなくなるまで投球する。
3. エンド終了時にジャックボールに最も近いボールを投球した側がそのエンドの勝者となり、ジャックボールに最も近い相手ボールの距離より近くに入った球数が、　　１球につき１点の得点となる。双方のカラーボールがジャックボールと同距離だった場合、それらのボールはすべて得点となる。
4. ４エンドの総合得点により、得点の多い側がその試合の勝者となる。同点だった場合は引き分けとする。
5. チーム戦における選手の交代は、エンド間に審判の許可を得て行うものとする。エンドの途中での交代は認めない。ただし、体調不良等により投球が続行できなくなった場合を除く。
6. 以下の行為はヴァイオレーション（反則）となり、投球されたボールまたは以下に示すボールはリトラクション（除去・回収）される。全てにおいて、相手側のペナルティースローは行わない。ジャックボール投球時については、その投球権が相手側に移るのみとする。

* 投球時（投げる瞬間）に、選手やランプオペレーターの体や衣類の一部、車椅子の車輪等の一部、ボックス内に持ち込んだボールや用品が、スローインボックスのラインに触れていた場合。
* 相手の投球時間にチーム（ペア）の選手同士で話し合う、またはボールを揉む、狙いを定めるとみられる動きをするなどの投球準備を行った場合、当該選手のボールはリトラクションされる。話し合うなど当該選手の特定が困難な場合は、そのチームのキャプテンがどの選手のボールをリトラクションさせるかを決める。
* 相手の投球時間に相手の投球に影響するような言動、行動があった場合、１球リトラクションされる。（投球に影響の判断は審判が行う）
* 選手が投球後のボールにランプオペレータの体や衣服の一部が触れた場合。
* ランプオペレーターがエンド中にコートの方を見たり、選手にアドバイスしたり、選手の指示がないのに投球準備につながる動きをした場合、１球リトラクションされる。